

平成 30 年度長野市健康増進・食育推進審議会議事録

日 時 平成 30 年 8 月 6 日 (月)  
午後 2 時～ 3 時

場 所 長野市保健所会議室 A B

出席者：中村会長、村澤委員職務代理、朝日委員、板倉委員、岡田委員、風間委員、春日委員、黒岩委員、小泉委員、佐藤委員、澤口委員、鈴木委員、林委員、原委員（代理出席 井原）、宮沢委員、宮澤委員、森委員

1 開会

2 あいさつ 竹内保健福祉部長

3 議事

(1) 第三次長野市健康増進・食育推進計画進捗状況

ア 成果指標の平成 29 年度末における状況について 資料 1  
意見 次のとおり (6 議事における意見等)

イ ながのベジライフ宣言事業について 資料 2  
意見 次のとおり (6 議事における意見等)

(2) その他

意見 次のとおり (6 議事における意見等)

4 その他

(1) 長野市健康増進・食育推進審議会の開催予定について

5 閉会

6 議事における意見等

資料 1について

(中村会長)

矢印と丸印で進捗を表しているが、丸印が付いた矢印は目標に向かって順調だが、丸印のついていないものがある。6年間の計画であるが、特に問題というものはあるのか。逆の方向に進み過ぎているとか、対策がしっかりとれていないものはあるのか。先ほど A 3 版の参考資料で庁内の対応ということで説明されているが、これはすでに対策がとられていると思うが、なにか指摘があれば教えていただきたい。

(事務局)

指標は平成 29 年からスタートしたもので、単年で経過をみているものである。少子高齢化ということで、糖尿病の改善は長野市の課題であると思っている。糖尿病からくる血管障害が、市民の健康に影響を及ぼしている。健康に関する評価は何年という単位でみてい

かなくはないので、医療費とか市民の健康度はもう少し経過をみていく必要がある。

(中村会長)

9番目の歯周病に関しては、数値だけみると逆の方向に進んでいる値が大きい。これは数値の性格上のものなのか。あるいは気を付けなければいけないものなのか。

(事務局)

若年のうちから歯周病に罹患する方が増えているということで、今年度から30歳の歯周疾患検診を導入して、若いうちから罹患しないように努めていただきたいということで新規事業を行っている。また、市民の集いなどを含めて周知をしていきたいと考えている。

**資料2**について

(中村会長)

最初の頃は「サキベジ」ということで、市長肝いりで推進していたが、少し膨らんだ内容になっているのか。

(事務局)

高血糖状態が全身の状態と関連があるので、野菜を先に食べるというだけでなくバランスよく食べていただくということと、動ける体を作っていただくためにはしっかり食べていただくということも大事。健診結果のデータに基づいて、個別の状態に合わせて食生活を適量にとっていただくということが生活習慣病の予防になる。市民ひとりひとりにあった食べ方、動き方をしていただくということである。

(中村会長)

ベジライフ宣言の応援店の登録の公表が7月にあったが、1期目が済んだということか。市内のホテル事業者への周知は、登録と公表がまずはホテル事業者ということか。

(事務局)

市長と懇談を行いました宴会場を有する市内ホテルということで、10施設になるが、総支配人にお会いしてポスターを掲示していただく、野菜から提供していただく、野菜料理を握りこぶし2つ分以上の選択ができるメニューの掲示などで、ベジライフ宣言の趣旨に賛同したホテルを登録してホームページで公表している。

(中村会長)

公立学校や保育園、認定子ども園は推進しやすいと思うが、ここにはない通常の飲食店がたくさんあるが、どのように対応するのか。

(事務局)

市内に3,300店ほど飲食店があるが、10月に食品衛生に関する講習会等があるので、そこでベジライフ宣言の周知を行い、応援店の登録を呼びかけていく予定である。

(中村会長)

「ハッピーかみんぐ1.2.30」は誰が考えたのか。

(事務局)

市民の皆さまの耳に残って、関心をもって取り組んでいただけるよう、健康課でのオリジナルである。健康でしあわせがくるということと、噛んでいただくということをあわせてネーミングとした。

(2) その他

(小泉委員)

直接、健康増進の話ではないが、昨日も信毎に掲載されていたが、全国で産婦ケア事業の実施している市町村は1/4くらいで、長野市は既に実施しているが、導入事体は遅れたが2年前に新生児訪問、こんにちは赤ちゃん事業を施行している。中核市で導入したことは大きな意義がある。その時点で長野市はネウボラを提唱したが、行政だけでやるのは難しい面があると思っていたが、長野市には「こどもの城」というNPO法人があって、今日配布した資料はこどもの城のホームスタートという訪問支援、子育てに悩むひきこもりがちな産婦さんへの訪問で、非常に特色のあることでまとめた。ネウボラという意味で民間と一緒にやるのはいいのではないかと思う。長野県では飯島町だけだったが、長野市は10月1日から産婦健診の助成事業を始めることになったが、非常に画期的だと思う。全国では昨年からは始まっているが、だいたい10%位で、産婦ケア事業が条件になっている。長野市のような大きな市ができるなら、小さな市もできるはずだということで、長野県の母子保健をリードする中核市になっているということで紹介した。

(中村会長)

全国でこういう事業が展開されているのか。

(小泉委員)

ホームスタートは、10年位前から全国では行っているが、長野はこどもの城でやっているが、これだけきちんとまとまったレポートは全国でもびっくりしている。この前は全国の人に来て説明会があったが、開催のことを知らなかったため、7月に発行した。こういった事業で、こどもの城のじゃんけんぼんでママ友が集まったりして、少子化の時代に子どもに関わるのは大事なことから、産後うつや早期発見とか、虐待の防止とか、そういう意味では長野は、子育て支援にこれから希望が持てるのではないかと思う。

(中村会長)

この取り組みも一つの側面で評価されている貴重な取り組みだと思う。